

「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」への変更点

現状と課題

- 歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育を忌避しがちな風潮があること。
- 他教科等に比べて軽んじられていること。
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること。

◎平成28年度に、特別の教科 道徳の教師用指導資料が刊行されます。

◎平成28年度刊行の「私たちの道徳」には、新しい内容項目に対応したページが挿入される予定。

◎学習指導要領解説 総則編および学習指導要領解説 特別の教科 道徳編は、文科省のHPから、ダウンロードできます。

1. 指導すべき「内容項目」の変更点

- ①内容項目ごとに、「相互理解、寛容」「礼儀」など「キーワード」を示す。
- ②小中の接続を意識し、低学年、中学年、高学年、中学校の内容項目を一覧表にして示している。
- ③1つの内容項目に対して、見開き2ページで学年段階ごとの要点を示す。
- ④内容項目の変更点

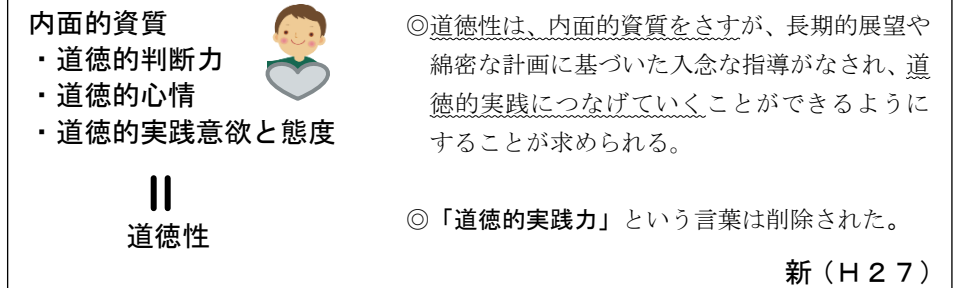
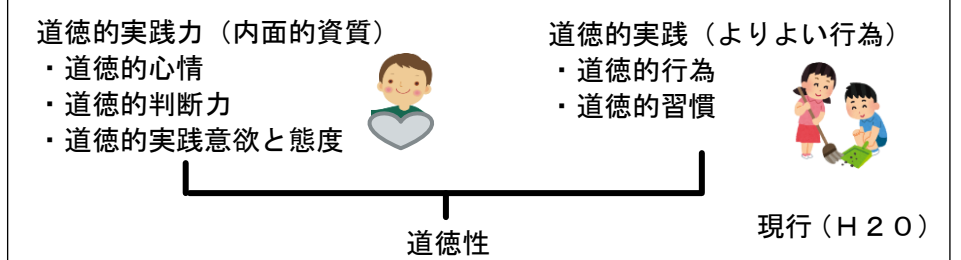
<小学校>

- 内容項目の数の変更
・低 16⇒19 ・中 18⇒20 ・高 22⇒22
- 低学年の新規内容
・「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際貢献」
- 中学年の新規内容
・「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」
- 高学年の新規内容
・「よりよく生きる喜び」
・整理・統合され、できた内容項目
⇒「よりよい学校生活、集団生活の充実」

<中学校>

- 内容項目の数の変更
24項目 ⇒ 22項目
- 整理・統合され、できた内容項目
・「思いやり、感謝」
・「友情、信頼」
・「よりよい学校生活、集団生活の充実」
- 分割され、できた内容項目
・「自然愛護」
・「感動、畏敬の念」

2. 道徳性の捉え（学校教育における捉え方）



3. 特別の教科 道徳（道徳科）の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）は中学校

（1）道徳的諸価値についての理解

- 人間として生きる上で、大切なことであると理解させる。
- 道徳的価値は大切でも、なかなか実現できない人間の弱さを理解する。
- 感じ方、考え方は一つではなく多様であると理解する。

（2）自己を見つめ

- これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせて、更に考えを深める。

（3）多面的・多角的に考える

- 物事を一面的に捉えず、様々な視点からの理解を図る。
- 発達に応じて、二つの概念が互いに矛盾、対立している二項対立の物事を取り扱うなど、指導の工夫をする。

（4）道徳性

- 道徳的判断力
・それぞれの場面において、善悪を判断する能力
・どのように対処することが望まれるかを判断する力
- 道徳的心情
・善を行うことを喜び、悪を憎む感情。よりよい生き方を志向する感情
- 道徳的実践意欲と態度
・道徳的判断力や心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
・道徳的判断力や心情に裏づけされた具体的な道徳的行為への身構え

4. 「道徳科」と「道徳教育」

◎新しい解説書は、2つに分かれています！！

- 「総則編」には、道徳教育全般についての内容が示されています。
- 「特別の教科 道徳編」には、主に授業についての内容が示されています。
- 教育課程を編成する場合、2つの解説書を理解しておく必要があります。

学習指導要領解説 道徳編（平成20年）

学習指導要領解説
総則編
（平成27年）

学習指導要領解説
特別の教科 道徳編
（平成27年）

5. 学校の教育活動全体で行う道徳教育の内容及び指導時期を示すことが規定。（総則編）

◎各学校においては、学校の道徳教育の全体計画を作成して全教師が協力して道徳教育を行うこと。

- ⇒校長の方針の下、自校の道徳教育の重点目標を明確にする。
- ⇒重点目標：例『思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする子供を育成する』
- ⇒重点内容項目が決まる：例「親切、思いやり」「規則の尊重（遵法精神、公德心）」

◎道徳科以外で行う道徳教育の指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

⇒新しい学習指導要領解説 総則編においては、上記のものを「示すこと」と規定されています。すでに、道徳の時間以外で行う道徳教育の指導の内容及び時期を一覧表にして「別葉」として示している学校もあります。

6. 検定教科書の活用について

- ◎道徳科は、主たる教材として教科用図書を使用する。
※「主たる」という言葉に、数値的な規定はありませんが積極的な活用が求められます。
- ◎道徳教育の特性から、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となります。
- ◎読み物教材以外にも、映像教材、実話、写真、劇、漫画、紙芝居などの多彩な形式の教材など、多様なものが考えられます。

7. 評価について

- （1）道徳教育における評価
子供のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。
- （2）道徳科の授業における評価
・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
・明確な意図をもち、指導方法の計画を立て、学習指導過程で期待する子どもの学習を具体的な姿で表したものが観点となる。

※現在の指導要録の書式なども含めて、その在り方を総合的に見直すことを前提に専門的に検討を行い、教師用指導資料の作成や指導要録の改正を行う。

めざす方向

- ◎発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が、自分自身の問題として捉え、向き合うような「考え、議論する」道徳科への質的転換を図る。
- ◎道徳科の授業が、すべての教室において、確実に行われる。